

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意

温裏剤 温中散寒剤 4

<p>しょうけんちゅうとう 小建中湯</p>	<p>温中補虚・和裏緩急</p>	<p>白芍 18g・桂枝 9g・炙甘草 6g・生姜 9g・大枣 4g・膠飴 30g (桂枝湯の白芍を倍量にして膠飴を加えたものに相当する) 前5味を水煎し滓を去り、膠飴を溶かして分2で温服する。</p>
<p>傷寒論</p>	<p><主治> 中焦虚寒、脾虚肝乘 引きつるような腹痛があり温めたり押えると軽減する、動悸、焦燥感、顔色につやがない、四肢がだるく痛む、手足のほてり、咽や口の乾燥感、舌質が淡、舌苔が白、脈が弦細で緩などを呈す。 <病機> 中焦虚寒で営衛気血が不足し、脾虚に乗じて肝気が横逆する状態である。 脾胃は後天の本で気血営衛を生化する源であり、中焦虚寒で運化が低下すると気血営衛が不足する。肝血が不足するために肝気が失調し、肝気が脾虚に乗じて横逆するので、ときに引きつるような腹痛が生じる。虚寒の疼痛であるから、温めたり手で押さえると軽減する。営血不足で心神が安定しないと動悸、焦燥感が現われ、肺を濡養できないと口や咽の乾燥感が生じる。脾は四肢を主り、脾気が不足すると四肢がだるく痛み、脾陰が不足すると手足のほてりがみられる。顔色につやがない、舌質が淡、舌苔が白、脈が細で緩は、気血不足と虚寒を表わし、弦脈は肝乗を示す。 <方意> 本方は、桂枝湯の白芍を倍量にして膠飴を加えたもので、温中補虚に主眼がある。 主薬は甘温で温中補虚、和裏緩急に働く膠飴で、辛温の桂枝は陽気を温通し、白芍は陰血を滋益して、主薬を補助する。甘温の炙甘草は、膠飴・桂枝と共に益气温中し、白芍と共に酸甘化陰して益肝滋脾する。辛温の生姜と、甘温の大枣は、温胃補脾により中焦生発の気機を振奮し、津液を行らせ営衛を調和する。全体で、辛甘化陽と酸甘化陰の両面が備わっており、温中補虚、和裏緩急の効能が得られる。中気が健運し化源が充足すれば、症候はすべて自然に改善される。 日本での保険適応効能、効果 体質虚弱で疲労しやすく、血色がすぐれず、腹痛、動悸、手足のほてり、冷え、頻尿および多尿などのいずれかを伴う次の諸症；小児虚弱体質、疲労倦怠、神経質、慢性胃腸炎、小児夜尿症、夜泣き</p>	
<p>おうぎけんちゅうとう 黄耆建中湯</p>	<p>温中補気・和裏緩急</p>	<p>小建中湯 +黄耆 9g 水煎し服用する。</p>
<p>金匱要略</p>	<p>主治は、虚勞裏急、諸不足 「虚勞裏急」は、小建中湯が適用する中焦虚寒、肝乗脾虚の状態である。更に「諸不足」は、気虚の程度がより甚だしいことを示している。 小建中湯に甘温で益気昇陽に働く黄耆を加えて益気建中の効果を強めている。 日本での保険適応効能、効果 身体所弱で疲労しやすいものの次の諸症；虚弱体質、病後の衰弱、ねあせ</p>	
<p>とうきけんちゅうとう 当帰建中湯</p>	<p>温中補血・和裏緩急</p>	<p>小建中湯 +当帰 12g 水煎し服用する。</p>
<p>千金翼方</p>	<p>主治は、産後の虚弱、腹痛で、 産後の血虚による衰弱、腹痛に、小建中湯で気血生化の源を充足させ、苦辛甘温の当帰で補血和血を強めている。 産後にこだわる必要はなく、男女共に血虚が明らかであれば本方を用いてよい。 日本での保険適応効能、効果 疲労しやすく、血色のすぐれないものの次の諸症；月経痛、下腹部痛、痔、脱肛の痛み</p>	
<p>きぎけんちゅうとう 帰耆建中湯</p>	<p>温補補血・和裏緩急</p>	<p>小建中湯 +当帰 12g・黄耆 9g 水煎し服用する。</p>
<p>華岡青洲方</p>	<p>主治は、気血両虚、中焦虚寒で、 小建中湯で温中補虚、緩急し、当帰・黄耆で気血を双補する。生肌、托裏排毒の効能ももっている。</p>	